

## 第81回日本薬理学会年会開催記念 市民公開講座 「知っておきたいくすりの知識—知っているようで知らない薬のこと—」を開催して

第81回日本薬理学会年会開催記念 市民公開講座世話人  
松木則夫 (第81回日本薬理学会年会会長)

「薬理学の原点：Origin of Pharmacology」をテーマとした第81回日本薬理学会年会の開催を記念して、一般市民を対象とした市民公開講座が、年会最終日の翌日、2008年3月20日に、東京都文京区の文京シビックセンターで開催されました。創薬研究に対する国民の期待が高まる今、優れた創薬のためには薬理学研究者を含む医療従事者と国民による双方向的な薬に関する情報交換が必要です。日本薬理学会によって主催される市民公開講座は、学会員の研究成果や知見を一般市民の方々に還元し、情報交換を活性化するために不可欠な薬の作用や使用方法に関する正しい理解を啓発するための重要な場であります。今回は、「知っておきたいくすりの知識—知っているようで知らない薬のこと—」と題し、市民の方々に、身近にある薬のことをより深く理解して頂くことを目的として、堀美智子先生（医薬情報研究所/株式会社エス・アイ・シー 医薬情報部門責任者）に「大衆薬、サプリメント、どう選ぶ、どう使う？」を、そして澤田康文先生（東京大学教授 情報学環・薬学系研究科（医薬品情報学））に「テーラーメイドの薬物療法ってなに？」を講演して頂きました。

本公開講座は、3月20日の14時から16時まで、生憎の雨模様の中で開催されましたが、それにもかかわらず、60名を超す老若男女の市民の方々が足を運んで下さいました。このことは、国民の薬に対する関心の高まりを良く表していると言えます。本講座の世話人である松木の挨拶に続き、まず、堀美智子先生が大衆薬やサプリメントとどう付き合ってゆくかを、御自身の薬剤師としての経験もふまえ、聴衆に身近な薬物を例に挙げながら、非常に分かり易くお話し下さいました。堀先生のお話には、「薬について正しく理解してほしい」というメッセージが込められていました。

例えば、名前が異なる大衆薬でも、同じ成分を含めば、同時に服用することでその作用は増強してしまいます。このようなことを防ぐためにも、薬の成分に目を通してみることで、そして薬剤師に多くの質問を投げ掛けることを堀先生は勧められました。堀先生はまた、各々の薬が自分にどのように作用したかを手帳に記録するとともに、その情報を薬剤師にフィードバックすることの重要性を説かれました。これこそが薬剤師を含む医療従事者を育て、良い創薬に繋がる道であるとお話になり、聴衆が強く頷く様子が印象的でした。

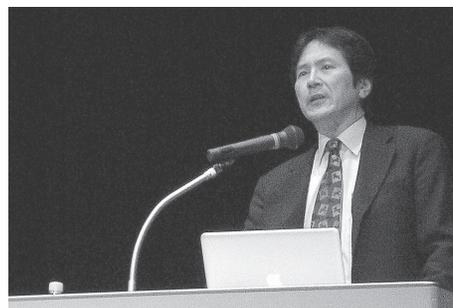
続いて、澤田康文先生が薬物の代謝経路の観点から、使用者によって薬の効果は異なることをご説明された後、国民自身が薬を育てること（育薬）の重要性を説かれました。良い創薬のためには、医療従事者や、製薬会社、そして行政の努力とともに、国民の声が非常に重要であると強調されました。澤田先生はご専門である情報科学を活かし、医療従事者による投薬ミスを防止するために尽力されています。類似名を有する薬物の投薬ミスの防止はテーラーメイド薬物療法の完成には不可欠であり、この目的のための御自身の研究も紹介されました。

薬とは「物品+情報」であり、その購入の際には情報も同時に手に入れ、使用の際には作用を良く記録、報告し、国民自身も情報の発信者になって創薬に携わる必要があるという両先生のお話は、聴衆の皆さんの心に強く響いたようです。講座終了後には、「このような会をもっとたくさん開いて欲しい」とのご要望を多く受けました。

最後に、本公開講座の開催にあたり、お忙しい中ご協力頂きました先生方、そして後援を頂きました各団体の関係者の皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。  
(文責：小山隆太)



堀 美智子先生



澤田 康文先生